

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	LOGI'Q市原新築工事	階数	地上5F
建設地	千葉県市原市八幡海岸通	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	290 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2026年4月 予定	評価の実施日	2026年2月24日
敷地面積	14,406 m ²	作成者	川田工業株式会社 竹内 啓輔
建築面積	8,641 m ²	確認日	2026年2月24日
延床面積	35,118 m ²	確認者	川田工業株式会社 竹内 啓輔



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> 千葉県市原市に位置する倉庫業を営む倉庫である。 広大な敷地には緑地を積極的に設け、周辺地域への配慮を行った敷地計画である。 		
Q1 室内環境 ・評価対象外	Q2 サービス性能 ・補修必要間隔の長い外壁・内装仕上げを採用し、ライフサイクル計画の長寿命化を図った。 ・壁長さ比率や天井高、荷重に余裕を持たせゆとりのある空間とした。	Q3 室外環境(敷地内) -
LR1 エネルギー ・LED照明器具の採用により、エネルギー削減を図った。	LR2 資源・マテリアル ・自動水栓や省水型機器を用いた。 ・使用する材料に配慮しており、デッキプレートによる材料使用量の削減やエコマークやグリーン購入法対象品などのリサイクル材を採用し、資源保護に努めた。	LR3 敷地外環境 ・燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。 ・車の出入り口を複数確保し、自動車の渋滞緩和に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

無断転載禁止

スコアシート		竣工段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能			0.43					3.7
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性		3.1	0.50					3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50					
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80					
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:表面強化剤塗布20年、壁:PB 防火区画壁30年	5.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	5.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					
2.4 信頼性		3.0	0.20					
1 空調・換気設備		3.0	0.20					
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20					
3 電気設備		3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20					
5 通信・情報設備	通信の多様化等	4.0	0.20					

3 対応性・更新性			4.3	0.50	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	天井高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり	積載荷重4500N/m ² 以上	5.0	0.30	-	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	-	
2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	-	
3 電気配線の更新性	構造部材だけでなく、仕上材を傷めることなく電気配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	-	
4 通信配線の更新性	仕上材を傷めることなく通信配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	-	
5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用(直接利用)			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.27		5.0	0.63	-	-	5.0
集合住宅以外の評価			5.0	-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	
4 効率的運用に向けた取組み			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.44	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.44	-	-	
4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	-		-	-	-	-	
4.4 コミュニケーションの推進	-		3.0	0.11	-	-	
集合住宅の評価					-	-	
4.1 モニタリング	-				-	-	
4.2 運用管理体制	-				-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	主要水栓に節水器具の採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減	BCP材、F.T.Pile構法等の採用		5.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	プリントタイル、ルースレイ(床)、ソーラノ(天井)		4.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS・OAフロアの採用		5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	ビニル床シート・壁紙用・フローリングボード用接着剤、壁塗装		5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材を使用していない。		5.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮			4.6	0.33	-	-	4.6
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率の削減		4.6	0.33	-	-	
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止	燃焼機器の設置無し		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	適切な量の駐輪・駐車スペースを確保等		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-				-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明・広告物照明の配慮事項の過半を満足		5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	5.0	-	-	-	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0	-	1.0	-	-	3.0	-	-	-	2.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能		窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH - 昼光率 0.0%													
3.1.1 昼光率		自然換気有効開口面積率 0.0%													
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率 0.0%													
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性		執務スペース .0㎡ /人 病床 .0㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡													
1.1.2 高度情報通信設備対応		コンセント容量 0.0 VA/㎡													
1.2.1 広さ感・景観		天井高 0 m													
1.2.2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%													
2.2.1 躯体材料の耐用年数		想定耐用年数 0 年													
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		想定必要間隔 0 年													
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		想定必要間隔 20 年													
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		想定必要間隔 0 年													
3.1.1 階高のゆとり		階高 6.05 m													
3.1.2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率 7.0%													
3.2 荷重のゆとり		床荷重 20000 N/m2													
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出		外構緑化指数 0% 建物緑化指数 0%													
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率 40% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 0%													
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI/BPI _m - 断熱等性能等級 対象外 相当													
2 自然エネルギー利用(直接利用)		影響範囲の割合 0.0% 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%													
3 設備システムの高効率化		太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kWh													
非住宅部分		BEI/BEI _m 再エネ有 - 無 0.27 オフサイト再エネ有 - ○○GJ/年													
集合住宅		一次エネ削減率 再エネ有 無 -													
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用率 0.0%													
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		特定調達品目 プリントタイル、ル エコマーク商品 プリントタイル、ル 自治体指定の特定品目等 -													
2.5 持続可能な森林から産出された木材		使用比率 0.0%													
3.2.1 消火剤		オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)													
3.2.2 発泡剤(断熱材等)		オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -													
3.2.3 冷媒		オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)													
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善		見付面積比 122% 隣棟間隔指標R _w 0.62 地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積S _b 2,908㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 133.607 m 基準高さH _b 17.8 m 緑地 ㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡													